

## 11. ジャーナル電子化について

世界的に数学文献の電子化の機運が高まっていることは皆様ご存知かと思いますが、日本数学会でも現在 Journal of the Mathematical Society of Japan

(以下 JMSJ) の電子化に取り組んでおります。特に過去の既刊分のアーカイブ化に伴う費用を JST が補助する予算の対象として本年度 JMSJ が選定され、実施に向けて必要な種々の作業を進めているところです。

電子化されたデータを公開するためには、まずそれに関する著作権関係の問題がクリアされねばなりません。そこで、著作権に関する数学会としての基本方針をまず定める必要があります。理事会を中心に各ジャーナル編集委員長なども交え出版委員会でも検討した結果、著者の側で自分のホームページで原稿を公開するなど支障なくできるようにする方向でほぼ成案を得ましたので、現在数学会ホームページにも「著作権に対する考え方」(10.参照)として公開中であります。

この考え方に基づいて、JMSJ の著者の方々と交わす文章がまとまり、それに御同意いただいて、法律的な問題に対処していく予定です。

どこでどのような形で公開するか、ですが、JST の関係している J-Stage に載せるのと、Sparc Japan を通して Euclid に載せるのと、2つのルートで公開する方向で考えております(詳細は戸瀬氏による報告を御覧下さい)。その際に関係者のアクセス権の扱い(有償 or 無償)をどうするか、など、現在冊子体のジャーナルは会員には無償配布していることもふまえ、様々な問題について検討中です。

このように当面は JMSJ の問題なのですが、近い将来 Japanese Journal of Mathematics や雑誌「数学」、「数学通信」、さらに ASPM やメモワールなどの不定期刊行物などについても電子化は課題になってくると想定され、そうした展望も見据えつつ、また各大学紀要など我が国の他の多くの数学刊行物の事例を参考にしつつ(かつ我々のこの経験が将来皆様の御参

考になればと念じつつ)、今後とも考えていきたいと存じます。

この問題について御意見等あれば出版委員会までお伝えいただければ幸いです。

(出版委員長 藤田隆夫記)